自然農法歳時記 No.50 北海道北見 無肥料 自然農法 秋場和弥　2007.8.9.

6 月 22 日に引き続いて、6 月 24 日ダメ押しの恵みの雨の日、歳時記 No49 号報告させていただいて以来、約一か月、7 月 23 日まで全面積の除草作業さしつかえるような雨なく、70 歳前後の長年、農業で鍛えられてこられた出面（パート）さんといわれておられるオバちゃん方に、朝 6：30～夕 5：30 お手伝いを頂き、併せて各豆畑平均 5 度にわたる軽トラクター除草メドが立ちかかりました時、週間天気予報になかった待望の恵みの慈雨を 23 日 26 日 28 日と頂きました。

しかし一方で、23 日には端野、美幌地区で、26 日は訓子府地区で雷とヒョウを伴った厳しい試練の雨でございました。

昨年はこの時期から 8 月お盆頃まで温度上がりつつも、小雨傾向で一部作物はどんどん未成長状況で上がりかかってきた時、8 月 18 日、19 日、10 年に一度のような集中豪雨となり、その惨状は昨年皆様にご報告させていただいているところでした。

今年度は、8 月に入っても 2 日 4 日 7 日、本日 9 日と昨年一晩で降った量を分散して頂く結果となり、開花したお豆さんが、結実に向けてさやを形成していく着きょう期という時期にあたり、適温、適水を最も必要とする時期で、しっかり根張り切ったそれぞれのお豆さんの茎とサヤがスクスクと育つ姿か手に取るように分かります。

しかし、ひょうや、集中豪雨に比べてどれほど軽微な被害（温度と湿度で玉ねぎ、ジャガイモ病害虫、病菌対策の農薬防除、頻繁にしなければならない）でも、私達農民は天候に対する不平不満を挨拶替わりにあてつけるクセがついております。

歳時記報告をさせて頂き始まって、自らをふりかえる機会を持てるようになって以来、私は極力、お与え頂いている天候という基本認識を持てるよう心がけております。

お陰様で仕上げの根草取りをお豆さんの中にもぐりこんで取るという表現ができる程、場所によっては成長許され、昨年のピンチの後なだけに余計ありがたく感じながら北見といえども 30℃前後、温度ある中、汗だく泥まみれで最終除草明け暮れております。

田畑作北限地帯における大面積、一年一作の博打的農業などと前回も表現してしまいましたが、創始者、恩師から教訓いただいたところの「真に全人類の健康と汚濁を発生しない環境作りを目指すなら、必ずや人々を健康で豊かにしうるだけの健全な生産物を頂ける無限のエネルギーにこの地球空間、土中は満ちている」という理想の志を拠り処に普遍化させて頂くための技術的マニュアルを具体化することを目標に、年々歳々日々奮闘努力しております事、今回で 50 回に及んだ自然農法歳時記を通してお伝えさせて頂きました。

この宇宙空間を一瞬の遅滞なく、法則、律りのもと、天運循環させている無限力の源は神としか言いようがないというような意味合いの事を、アインシュタイン博士も湯川博士もおっしゃっているよという事を恩師からお聞きした事がございます。

それではこの北方の大地に立って地力を進化させ永続的な自然力を引き出していくには非常に積算温度も限られている中にあって、どうあれば良いか、3 代 55 年にわたっての営みであった事、先回報告させて頂いた通りです。

そしてたどりついた結論は 1 年とか、場合によっては 2 年、その圃場に与へられた遊休期間に投入物を他から持ち込まず厳選された緑肥種子をできるだけ春先早く播種し、最大効率で空間土中の様々な要素を取り込み土地力を進化できる方法はいかにや、という事でした。

その為にはいつもしっかりした自然観察によりあらかじめ策定しております 5 カ年計画の微調整がいつも機能できますよう、頭を整理しております。

「汚濁の滞る処、自然浄化作用発生し、大調和保たれている」と教わっている天則上地球空間の物心両面のクリーン度がましていけば、だんだんその揺り戻し現象は小さくなってくるでしょう。

私が昨年受けた水害、近隣の皆様が今年受けたひょう害、決して陥入ってはならない事は天理天測をしっかり受けとめ、暗く沈んでしまわない事だよと自らにも言い聞かせ、昨年度水害による土壌流亡の大規模修復に動員したユンボ等重機を 7 年間荒地と化していた約 3 町歩の友人の水田跡地開墾に同時進行で実施できた事は、今年度目に見えて土地力弱っていた 30 年圃場に代替えにより緑肥栽培できた事は、急速な回復につながっております。

併せて 2mにも及ぶ、雑草におおわれた荒れ地が、見事に新生し、豊かな実りとなっている姿、9 月御来訪時、ご紹介させて頂きます。本年度北見市では、土地力回復の為、緑肥種子の半額助成を実施し、硫安という化学肥料により、えん麦、キガラシ等一気に大きくさせ、既に鋤き込んで積雪までの約 3 ヵ月、土がむき出しとなっております。

私はえん麦と雑草と赤クローバーの 3 つの要素種子を先回申し上げましたように、今年度過去 30 年最も大雨近かった 5 月度のすべての作物の播種時期、大雨と大雨のはざま、乾きが甘くて、作物にはダメージの元となりそうなので、もう一日待とうとした日、約 5 町歩次々と、緑肥播種し続けました。

適当な水分が、緑肥にとってはプラスし、発芽と成育に大成功でした。7 月下旬、えん麦と雑草の種子結実寸前次年度雑草化しないようにチョッパーで粉砕して、圃場のその場に同時散布、地表に繁茂するクローバーの葉の表面水分で速やかに腐食しています。

現在はクローバーが地表では青々と、地中は根粒菌一杯の地下茎が、次々と 2〜3 日間隔で舞い降りてくる適雨によって空気中の要素を取り込み続けています。

この事は化学、有機肥料一杯の世間のお豆が根張りが浅く、茎が出きすぎ、倒れかかるのを横目に、私のお豆さんはしっかり直立し、適雨のたびに天に向かって成長する無施肥無農薬のお豆さんの姿は、しっかり根張り深く、ひげ根無数にできていて、たくさんの根粒菌の活動状況が見てとれる事からも証明できます。

こうやって様々な要素をとりこみ、蓄積された土地力は次年度以降、特に生育後半部、途中息切れせず、粘り強く、持続力を提供して下さる事、経験上確信できます。

皆様との温かい交流をバネに 7 年 50 号に到らせて頂きました自然農法歳時記。まだまだ初期段階という認識のもと可能な限り、元気に一年でも長く続ける事ができるよう、天界にあられる創始者、恩師にお祈り申し上げ、そして皆様にはお誓いさせて頂きます。

9 月の御来道、実りある交流となる事祈念し、楽しみにお待ちしております。